

明治と昭和・・・先人たちは決断しました  
今、時代の変革期に生きる私たちにも  
その大きな“志”が受け継がれています



子どもリズム体操教室（あいとぴあ臼田：臼田町）

21世紀という混迷の時代に立ち向かうためには  
新たなまちづくりに挑戦する“勇気”と“志”が必要です

「合併しなくても、誰かが何とかしてくれる」・・・他人任せでは、将来の展望はできません  
時代の変革期の今、私たちが将来への決断を誤ると大変なことになります  
その“ツケ”は、自分の子どもや孫たちが背負うことになります

4市町村の【まちの絆】と【ひとの絆】によって  
一人ひとりのための温かみと豊かさのある新しいふるさとをつくりましょう

# 平成の大合併は、自治体として生き抜くための手段です。

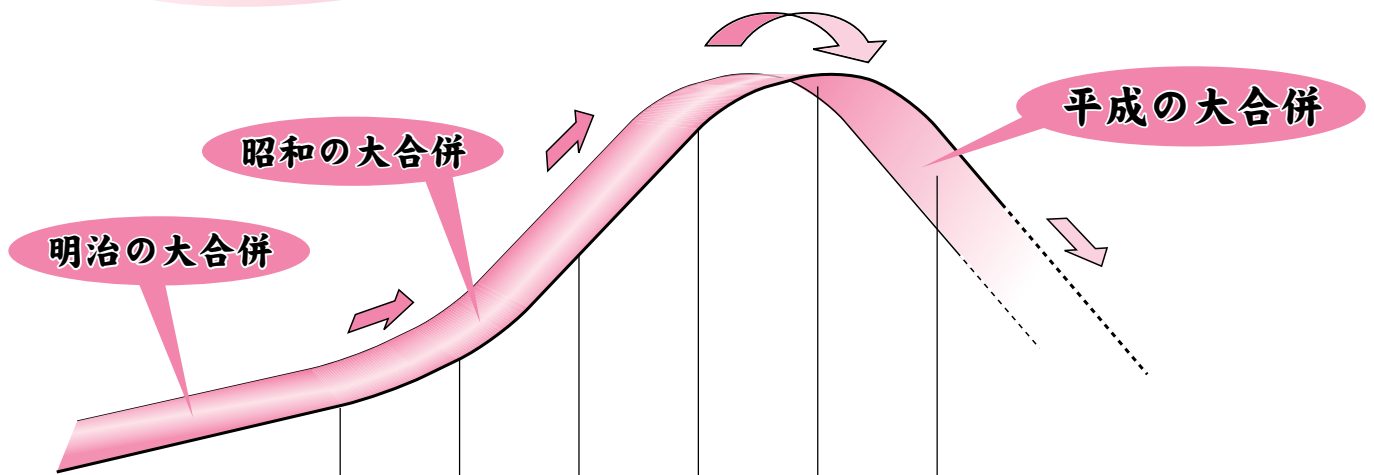
わが国では、これまで「明治」と「昭和」の2度の「大合併」を経験してきました。  
過去の合併と現在の「平成の大合併」は、社会経済情勢という背景に大きな違いがあります。

## 明治・昭和の大合併

今後の社会経済情勢は明るい見通し  
人口は増加し、右肩上がりの将来に  
希望が見える状況での合併

## 平成の大合併

低迷する社会経済情勢、少子高齢化・  
人口減少社会の到来の中で、多様化・  
高度化する住民要望に対応していくた  
めの生き残りをかけた合併



### ■ 明治の大合併とは・・・

徒歩で行動できる範囲の合併 ～ 自治体数 7万→1万5千へ

近代社会への転換 → 地方自治の発祥、展開

明治の大合併は、江戸時代からの自然発生的な町村を合併して行財政機能を充実し、近代的な地方自治制度を導入するために行われたものです。

### ■ 昭和の大合併とは・・・

自転車で行動できる範囲の合併 ～ 自治体数 1万→3千へ

右肩上がりの経済情勢 → 日本全体が希望にあふれた時代

この合併により、昭和30年代以降の高度経済成長等による大きな社会変化に対応していくための基盤が整備されていきました。

### ■ 平成の大合併とは・・・

自動車等で行動できる範囲の合併 ～ 自治体数 3千→？

先の見えない下り坂 → 長引く経済不況・少子高齢化と人口減少社会への対応

交付税削減等により人口の少ない自治体の収入は急激な減少へ

## 明治と昭和の大合併

我が国の地方自治制度の近代化や  
変革に伴い、国・県主導の形で進  
められました。

## 平成の大合併

社会経済情勢の変化に対応する  
ため、市町村が自らの判断で行  
う自主的な合併です。

これからの市町村は、「誰かがなんとかしてくれる...」という従来の依存体質から脱却し、自らの判断と責任で、地域の実情に合った行政サービスを提供して行かなければなりません。